

はまぼうふう vol.17 2006.1.27.

石狩浜海浜植物保護センター通信

石狩浜にシカの足跡！ 10月下旬、海岸で調査に取り組む北大の松島さんが、シカの足跡を発見し、写真を送っていただきました。

海岸草原にエゾシカ・・・？エゾシカの多い道東方面ではめずらしい光景ではないのかも知れませんが、ここ石狩ではやはり驚きです。

専門家によると、10月はエゾシカの繁殖期^{はんしよくき}なので、発情したオスが行動圏^{けん}を広げてうろついていたのではないかとのことでした。

近年は、北大構内や花川市街などでも時々（といっても数年に1回程度ですが）シカが目撃されているので、自然が残る石狩浜に現れるのは驚くことではないのかもしれませんが。

しかし、石狩浜への大型野生動物の訪問は、ふだん目にするノネズミやキタキツネとは違った緊張感と、どこかうれしい感覚を覚えるのでした。

さて、このシカは、どのようなルートをたどって石狩浜まで来たのでしょうか。みなさん、想像してみてくださいね。



砂地に残された
エゾシカの足跡。
周囲はハマコノク群落。

お知らせ

活動報告・調査報告の発行について

- ・平成16年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告
 - ・石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告1～4号
- 発行しました。入手希望者はお問い合わせください。

- 1号:石狩浜における植生モニタリング区の設置と14年間の植生変化
- 2号:石狩川河口湿地部における植生モニタリング区の設置と植生概況
- 3号:石狩海岸林における植生概要
- 4号:石狩浜定期観察による植物開花状況の記録(2004/2005)

冬期学習会について

申し訳ありませんが、今年は都合により開催いたしません。

次年度に向けて

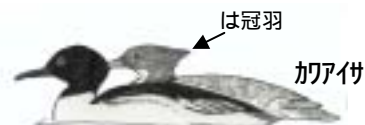
はまなすの丘スキの刈り取り作業や定期観察などの調査をお手伝いいただけるボランティアさん募集。希望者はお問い合わせください。

次年度予定は、3月以降、HPや広報誌に掲載予定。

冬の石狩浜watching

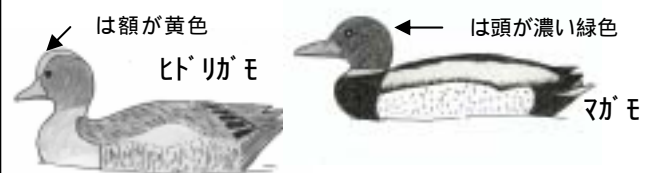
もぐるカモ？もぐらないカモ？

カモを識別できたら生態も観察してみましょう。



水にもぐって、魚などをつかまえて食べます。

カガモ、オカガモ、カヅリ類なども。



水にはもぐらず、岸边や水中の草を首を伸ばして食べる植物食のカモです。マガモ、カガモ、カヅリ類なども。

石狩市の海岸～砂丘と断崖～

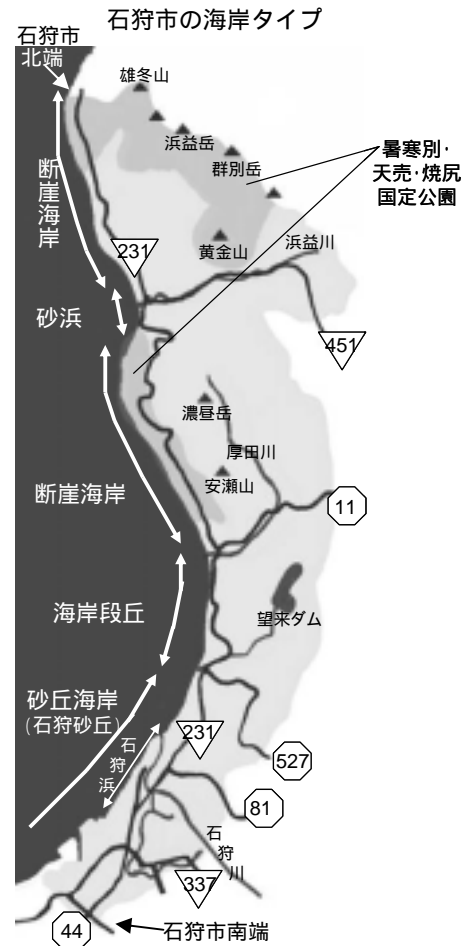
昨年10月1日、石狩市は厚田村、浜益村と合併し、海岸線の長さ約80km、石狩湾の北側約半分を占める海辺のまちとなりました。

旧石狩市の海岸線はすべて砂浜。石狩川から運ばれた砂が波と風によって海岸に積もってできた砂丘海岸です。一方、旧厚田村～浜益村の海岸線の大部分は、増毛山地（樺戸山地）と暑寒別山地をあわせた総称が波に侵食されてできた断崖海岸。

この対照的な海岸双方をかかえるまちは、北海道では、小清水原生花園と知床半島をかかえる観光のまち斜里町がありますが、石狩でもそれに近い自然を十分満喫できるのです。

対照的な海岸は、海岸の自然環境を学ぶ絶好の教材でもあります。

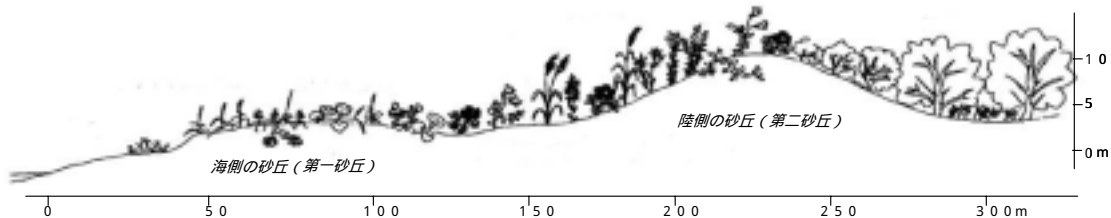
それでは、砂丘海岸と断崖海岸の植生のちがいをみてみましょう。



砂丘海岸の植生

不安定な砂地に成立したハマニンニク、コウボウムギ、ハマボウフウなどの海浜植物群落と、その内陸の安定してきた砂地に発達したハマナス、エゾスカシユリ、エゾカワラナデシコ、コガネギクなど鮮やかな花を咲かせる種が多く生育する海岸草原が特徴的です。海岸林の優占種はカシワですが、内陸へ向かうにつれて、ミズナラやイタヤカエデが混じります。

砂丘海岸の植生断面図



砂浜	不安定帯	半安定帯	安定帯		海岸林	
オカヒジキ	ハマニンニク コウボウムギ ハマニガナ ハマボウフウ ハマヒルガオ ウンラン	ハマニンニク コウボウムギ ハマボウフウ ハマヒルガオ ウンラン コウボウシバ ハマエンドウ ハマハタザオ イソスミレ ハマナス	ハマナス ススキ チャシバサゲ エゾカワラナデシコ エゾカワラマツバ ナミキソウ コガネギク ヒロハクサフジ	ハマナス ススキ チャシバサゲ エゾカワラナデシコ エゾカワラマツバ ナミキソウ コガネギク ヒロハクサフジ ノコギリソウ オオヤマフスマ エゾスカシユリ ヒメイスイ ヤマブドウ ツルウメモドキ ナウシロイチゴ	カシワ チマキザサ マユミ コマユミ キンギンボク	カシワ チマキザサ ミズナラ イタヤカエデ アズキナシ マイヅルソウ トクサ

断崖海岸の植生

断崖海岸の断崖下の崩壊斜面は、オオイタドリ群落で、チシマアザミ、オオヨモギ、エゾニュウ、ヨブスマソウ、エゾイラクサなど高茎草本が多く見られます。断崖壁には、ススキ・ハマオトコヨモギ群落、エゾネギ群落が広く発達しています。前者群落には、エゾカワラマツバ、オオウシノケグサ、ハマナス、ショウジョウスゲ、ヒロハクサフジなど、後者群落には、ハマオトコヨモギ、ハマエノコロ、マルバトウキなどが含まれます。

また、一部の断崖壁には、キリンソウ群落が見られたり、バシクルモンなどの希少な種も確認されて

います。

断崖上部で土壌が発達してくると、イタヤカエデ、ヤマグワなどの樹木が見られるようになり、イタヤカエデ林へと移行します。断崖上のイタヤカエデ林は内陸へ向かうと、ミズナラやシナノキの混じる林となります。

暑寒別天売、焼尻国定公園指定促進調査(自然環境)報告書
(昭和59年度、北海道)をもとに文章・図を作成。

断崖海岸の植生断面図



石狩浜海浜植物保護センターでは、石狩浜の保護活動にあわせて、拡大した市域の海岸の自然についても、

自然情報の収集、発信に努め、講座や観察会でみなさんに紹介していきたいと考えています。なお、断崖海岸の植物や野鳥、動物の情報や、これらの写真をお持ちの方は、ぜひ、ご提供願います。

活動の中から

花が実にならないわけ～海浜植物と昆虫の深い関係～

2005年、北海道環境科学研究センターとの共同研究で、石狩浜の代表的な植物15種について、繁殖特性を調べました。

植物の繁殖とは、花を咲かせて実・種子を突らせること。花から実になる過程で、虫による訪花を必要とするか、虫がなくても実ることができるか、といった性質は、植物の繁殖特性をあらわす代表的なものです。

今回の研究では、おもにこの性質を調べました。この性質を調べるには、花が咲く直前に、花に袋をかぶせ、人為的に虫が訪花できない状況をつくります。

さて、おなじみの海浜植物は、どうだったのでしょうか。

自然の状態での結実率（花が実になる割合）は、右表の「自然状態」の欄に示すとおりでした。これを見るだけでも、咲いた花ほとんどが実になる種と、花が咲いても実になるものはわずかである種があることがわかります。

それでは、花に袋をかけた場合の結実率は、どうなるのでしょうか。右表の「袋かけ」の欄に示すとおりです。

ハマボウフウ以外は、明らかに自然の状態より低くなりました。とくに、イソスミレやヒメイズイ、ハマエンドウ、ウンランなどは、虫が花を訪れないと、ほとんど実をつることができないのです。

海岸の植物にとって、いかに昆虫が大切であるかがわかります。

また、花を訪れる（花粉や蜜を食べる）昆虫が生きていくためには、海岸に花が途絶えることなく咲いていることが大切です。

石狩浜の砂丘植物群落は、花と虫との密接な関わりによって成り立っているのです。

（この研究の成果は、北海道環境科学研究センター所報等に掲載される予定です。）



ハマナスにきたミツバチ

おもな海浜植物の結実率

（およその数値で示しています。）

	自然状態	袋かけ
イソスミレ	30%	1%以下
ハマハタザオ	70%	30%
ヒメイズイ	20%	0%
ハマエンドウ	5%	1%以下
ハマナス	20%	0%
ハマボウフウ	80%	60%
イヅナ	50%	20%
ウンラン	10%	1%以下

上記以外の種も調査しましたが、虫による食害を受けたり、開花時期や環境の影響を受けたりして、簡単に結果を表すことができないので、ここでは紹介していません。

活動報告

秋の自然観察会

9月23日 参加者 16名

石狩浜から厚田無煙浜まで、石狩砂丘の北半分を巡りました。はまなすの丘では、イソスミレを記念に移植。シップの海岸草原では、満開のコガネギクの大群落を見て、参加者は大感動。

石狩砂丘最北端の無煙浜では、海岸段丘が背後に迫り、狭まった砂浜に寄り添ってはえるハマニンニクが印象的でした。



こども自然教室

10月1日 参加者 15名

どうも毎年秋雨の時期にあたってしまいます。室内でのネイチャーゲーム「食物連鎖しよくもつれんさ」はちょっとむずかしかったようで不評。雨の合間を見て、外へ。草原の宝探しやブドウづるでのリースづくり、漂着物拾いなどをしながら、みんな楽しく歩きました。午後からは、室内でクラフト。集めてきたものをつかって、壁飾りやリースの飾りつけをしました。今回は、「コウボウムギの筆」をつかったお絵かきに初挑戦！楽しい作品がたくさんならびました。



4月から10月まで全12回、開花植物と野鳥の観察記録を、延べ45名ボランティアさんの協力により行ってきました。その結果、2004年と2005年2年分の石狩浜の花ごよみを作成することができました。成果は、石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告第4号に掲載。

石狩浜名無し沼調査

石狩斎場裏手の通称「名無し沼」に生育、生息する動植物の調査。6月～9月まで全7回の終了。水生植物含む植物約30種、水生昆虫30種程度、魚類1種など、多様な動植物の生息場所となっていることがわかりました（札幌市博物館活動センターや石狩自然誌研究会らと共同の調査。報告書作成中）。

はまなすの丘ススキ刈り取り作業

総勢10名のボランティアさんが集まって、美しいハマナスの景観を維持しようと、はまなすの丘に目立ってきたススキの株の掘り起こし作業を行いました。



車走行によって生じた裸地の

植生回復状況モニタリング調査

8月に新たに車乗り入れ防止柵が設置された区域で、車走行によってできた裸地に植生が回復する状況をモニタリングしようと、調査区を設定しました。北大農学研究科と共同で、10年間、モニタリングしていく計画です。

.....
行事・講座への参加申込・お問合せ、通信・刊行物に関するご意見、お問合せ等は、下記まで。

開館期間（4/29～11/3）：〒061-3372 石狩市弁天町 48-1 tel.0133(60)6107 fax.0133(60)6146

開館時間 9時～17時 休館日：火曜日（祝日の場合その翌日）

冬期閉館期間（11/4～4/28）：〒061-3292 石狩市花川北6条1丁目30-2 石狩市役所内 tel.0133(72)3240

email. ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP：http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/index.htm